

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 18 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

バビロンは内陸で、港町ではありません。

またここで使われている言葉も明確で、たとえではありません。

17 章は象徴的ですが、18 章は文字通り、実際に都が一瞬にして滅び、海で働く者たちも、そこが瞬く間に荒れ廃れるのを見るのです。

それから、彼らは、頭にちりをかぶって、泣き悲しみ、叫んで言いました。『わざわいが来た。わざわいが来た。大きな都よ。海に舟を持つ者はみな、この都のおごりによって富を得ていたのに、それが一瞬のうちに荒れすたれるとは。』（黙示録 18:19）

「一瞬の内に！ どうしてこんな事があり得よう。」彼らは海から眺め、何度も何度も言います。

それに対して天の反応は、

おお、天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都のことで喜びなさい。

神は、あなたがたのために、この都にさばきを宣告されたからです。（黙示録 18:20）

「喜びなさい！」「墮落し不品行を撒き散らし、人々や文化、国々をめちゃくちゃにしてきた都が遂に終わりを迎える。喜べ！」

また、ひとりの強い御使いが、大きい、ひき臼のような石を取り上げ、海に投げ入れて言った。「大きな都バビロンは、このように激しく打ち倒されて、もはやなくなって消えうせてしまう。

(黙示録 18:21)

立琴をひく者、歌を歌う者、笛を吹く者、ラッパを鳴らす者の声は、もうおまえのうちに聞かれなくなる。あらゆる技術を持った職人たちも、もうおまえのうちに見られなくなる。ひき臼の音も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。(黙示録 18:22)

音楽、カフェ、ハードロック、プラネット・ハリウッド (*ハリウッド映画をテーマにしたレストラン)、その他全部なくなります。終わりです。

それから、全てのひき臼の音ありません。これは、身を粉にして働くことももはやないという意味。終わり。

ともしびの光は、もうおまえのうちに輝かなくなる。花婿、花嫁の声も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。(黙示録 18:23)

ここでまた、昔の聖書解説者は理解に苦しみました。「突然町全体が煙に包まれているのに、なぜ誰もロウソクを灯さないのか?」「滅びの時にロウソクを灯さない人間がいるのか?」「誰が、破滅の後ロウソクを灯さないのか?」

答えましょう。それは、ロウソクを持っていないから。

洗練された近代都市の現代文化の中で、どれくらいロウソクが灯されているでしょう?

もし電気が完全に止まったら真っ暗闇です。完全な電力停止の原因は、当然核攻撃による都の破滅。どれほどの惨状となることか。

ロウソクの光がなく、花婿、花嫁の声も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。(黙示録 18:23)

人生の喜びも失われます。全てがここでなくなってしまいます。

ここで3つのことが結び付いて、面白い事が分かりますよ。

なぜなら、おまえの商人たちは地上の力ある者どもで、(黙示録 18:23)

ヒントその1。誰が? 何が? バビロンとはどこ?

まず一つ、ここに書かれていますね。

おまえの商人たちは地上の力ある者どもで、(黙示録 18:23)

これは、偉大な人という事ではなく、地上の“金持ちたち”という意味。

バビロンで力ある者たちの何が神を怒らせるのか。それは、彼らが明らかに殺人を生み出しているからです。「手段は選ばない。経済を回さなければ!」「儲けを出すんだ。」「収益を上げ続けるんだ。」

地上の力ある者どもの商人たちは、ただ金儲けをして、

すべての国々の民がおまえの魔術にだまされていたからだ。(黙示録 18:23)

“魔術”という言葉は、以前もお話した通り、“Pharmacia” (*薬、薬局の語源)

バビロンではドラッグ(クスリ)が大きな位置を占めています。

「全ての国が騙されていた」は、「全ての国が『ドラッグの“クモの巣”にかかっている』」ということ

をはっきりと伝えています。

「全ての国が『薬物売買』の“クモの巣”にかかっている」

なぜですか？バビロンが原因です。これまで様々な調査報告や新聞、雑誌、ニュースを読んできている人ならもうお分かりでしょう。

現在、世界の薬品業界を動かしているのは、間違いなくアメリカ合衆国。

そういう事です。お金はアメリカにある。需要と供給。我々が要求し、世界が供給する。

ヘロイン中毒者が爆発的に増えているのは確かな事で、お金が全て、ドラッグが全て、快樂が全て。魔術です。

つまりバビロンは、力ある者たち、金持ちたちがいる所であり、ドラッグが、全世界を“薬物市場”の“クモの巣”にかけるのです。

次に3つ目。

また、預言者や聖徒たちの血、および地上で殺されたすべての人々の血が、この都の中に見いだされたからだ。」(黙示録 18:24)

聖徒の死がバビロンの頭上に降りかかる。「どういうこと!?!」

ショッキングな事実をお伝えします。

1900年以降、毎年平均25万人の新生したクリスチャンが殺されています。

よく考えて下さい。1900年から1997年まで、毎年“1年間”に平均25万人の殉教。

世界中でクリスチャンが、信じられない勢いで殺され続けているのです。

何度も言いますが、最近の出来事を追っていくと、これが、現アメリカ連邦議会の問題であることに気が付くでしょう。

クリスチャン社会は、世界中で起こっている出来事に警鐘を鳴らす立場であり、新生したクリスチャンの虐殺に対してアメリカは対抗する、という態度を明確にしなければなりません。特に中国という国に関して。

中国ではおびただしい数のクリスチャンが、残酷な迫害によって殉教し続けています。

ところがなんと、我が国は、それには触れません。

中国は我々にとっては一番の友好国だから。中国はアメリカ市場の最大の顧客だから。

人口12億5千万人。(※1997年)大きすぎる！

バビロンは言います。「国家として我々も、そこでクリスチャンが残忍に虐殺されていることを知ってはいるが、そんなことでこの巨大な収益を失う訳にはいかない。殺されるままにしておけば良い。」

それから、中国で何億と起こっている妊娠中絶。中絶される胎児の内、10人に9人が女の子、女の赤ちゃん、胎児です。超音波を見て女の子だと分かると「流してしまえ。」

なぜなら、一人っ子政策のため一家に一人しか子供を持たず、家を継ぐのは90%が男の子だから。

女性人権問題の活動家たちはどこへ行ってしまったのですか？女性活動家たちはどこにいるのですか？

こんな女性差別に対して、なぜフェミニストたちは何も言わないのですか？さっぱり意味が分からない。全く理解できません。「中国に対して立ち上がらなければ！」と言わない。

我が国アメリカ政府がこの状況をよく理解しているということは、絶対の絶対の絶対に確実で疑いの余地はありません。それが問題なのです。

「つまり、ジョン、分かり易く言うと？」「分からなくなってきた。イラクのバビロンについて説明した時、その預言はまだ成就していないと言った。預言ではソドムとゴモラのように完全に滅亡と言っているが、バビロンは再建されつつありまだ存在すると。（*1997年当時）今度は、この都は港町で全世界に影響を与えているって。一体何を言いたいのか？」

私が言いたいのは、「バビロンは、アメリカである。」という考え方もあるという事。

具体的には、世界経済を牛耳っているニューヨークシティーです。

その可能性を示す興味深い箇所があります。イザヤ書 18 章を開いて下さい。

聖書預言を学ぶ人、これに関してもっと詳しく知りたい人は、次の 3 点を調べて見て下さい。黙示録 17 章、18 章。バビロンについて現在学んでいる箇所です。

そしてこれらのパズルを合わせるためには、エレミヤ書 50 章、51 章。それとイザヤ書 13 章、14 章。

後で見えていきますが、まずはイザヤ書 18 章。

ここで告げられていることに、多くの神学者たちが驚きました。

災いだ、遠くクシュの川のかなたで羽の音を立てている国は。（イザヤ書 18:1 新共同訳）

聖書のイザヤの時代、“エチオピアの川々” と言えば未知の領域、ずっと遙か彼方の、どこかとても遠くの国を指していました。

また「羽の音を立てている国」を預言的に見ると、具体的にアメリカを象徴しているという考えがあります。ご存知の通り、アメリカの国章は白頭鷲（ハクトウワシ）。翼を広げた記章を見かけますね。「羽の音を立てている国」 そうかもしれません。興味深いです。

彼らは、パピルスの舟を水に浮かべ海を渡って使節を遣わす。（イザヤ書 18:2 新共同訳）

18 章を読むと、海を渡って中東へ使節を遣わすのは海の向こう側の国。

海の向こう側に海路によって使節を送る。2 節は続けます。

行け、足の速い使者たちよ。背高く、肌の滑らかな国、（イザヤ書 18:2 新共同訳）

つまりイザヤの時代に、想像を超える遙か向こうに羽音を立てている国があって、自分たちが住んでいる中東から海路によってその国に使節を送る。そこは広くて磨かれた国。

ヘブル語の文字通りの意味は、「広範囲に広がり、磨き上げられた国民」

遠くの地でも恐れられている民へ。強い力で踏みにじる国、幾筋もの川で区切られている国へ。

（イザヤ書 18:2 新共同訳）

遠近に恐れられる民、力強く、戦いに勝つ民へ行け。（イザヤ書 18:2 口語訳）

あちこちで恐れられ、方々で戦争に勝ち、統治されている地を踏みにじり、奪い取る国。

初めから勢いがあり、全世界がアメリカ改革を見守っていました。

これは、まさにアメリカの歴史じゃないか！という意見もあります。

我々は、マニフェスト・デスティニー「明白なる使命」（*アメリカ合衆国は、北アメリカ全土を開発し、支配すべき使命を担っているという 19 世紀の理論）を持って、海岸線から海岸線まで行動しました。「原住民が立ちはだかるなら、かかって来い！海から向こうの輝く海まで全て我々のものだ！」こんな風に。

次も関心を引く聖句が続きます。本当に引き付けられます。

あちこちで恐れられた国、その国の川は、水が腐っている。(イザヤ書 18:2 KJV)

多くの川の流れる国 (新改訳)

遠方であって他を強い力で踏みにじり、海が近くにあるこの国には公害もあります。

この名高い国は公害にまみれ、元の状態に戻ることはありません。

川が汚染されているのです。

では、エレミヤ書 50 章を開いて下さい。大変興味深いことが書いてあります。詳細を話している時間はないので、幾つか指摘する点を自分で確認して結論を出して下さい。

ここはバビロンについて書かれています。

あなたがたの母はいたく恥を見、あなたがたを産んだ者ははずかしめを受けた。見よ。

彼女は国々のうちの最後の者、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。(エレミヤ書 50:12)

エレミヤ書 50 章、51 章は、バビロンの最後の滅びについての記述で、黙示録 18 章で起こるのと同じことを語っています。

あなたがたの母はいたく恥を見、あなたがたを産んだ者ははずかしめを受けた。(エレミヤ書 50:12)

これはアメリカが煙に包まれ、私たちのバビロンが一瞬で崩壊した時に、イギリスが全く同じように感じ思う事だという説もあります。

「なんだ、そういうことか!!」「言いたいことが分かって来た。俺たちが核兵器で一瞬にして滅ぼされると言いたいんだろう?」「ジョン、新聞を読んでないね? 冷戦は終わったんだよ。」あなたこそ読んでませんね。

3 日前、新聞に掲載されていたのは、(*1997 年) “ロシア、核弾頭の先制攻撃政策を復活” 皆さんも自分で確認できます。

ロシアが、圧力を感じたなら先制核攻撃を行うと、史上初めて公に発表しました。

ロシアは攻撃されるのを待たずに、核兵器を使用して先制攻撃を仕掛けるということです。興味深いですね。これが何を意味するのか私には分かりませんが興味深いです。

37 節まで読み進めていくと、

剣がその馬と車と、そこに住む混血の民にも下り (エレミヤ書 50:37)

別の言い方をすれば、この国バビロンが滅びるのを見て、**母はいたく恥を見、あなたがたを産んだ者ははずかしめを受けた。(エレミヤ書 50:12)**

母というのはイギリスとも言えますが、このバビロンの人々は歴史上のバビロンとは違って、「混血の民」だと書いてあります。歴史上のバビロンは単一民族なので、違うことは明らかです。ここは“人種

のるつぼ” “メルティング・ポット” と呼ばれる所、様々な人種が入り混じった国で、混血の人々が絶望に陥ると言うのです。興味深いですね。

次にエレミヤ書 51:13 を見て下さい。その国がどこであれ、引き続きバビロンについて語っています。
大水のほとりに住む財宝豊かな者よ。あなたの最期、あなたの断ち滅ぼされる時が来た。

(エレミヤ書 51:13)

歴史上のバビロンは大水のほとりではなく、一つの川、ユーフラテス川のほとりにありました。しかしこのバビロンは、周囲を水で囲まれています。大西洋とか太平洋とかメキシコ湾に五大湖。

世界の真水の 1/4 が五大湖にあるという事、知っていましたか？びっくりですよ。

その五大湖と湾と大西洋に太平洋。私たちは水に囲まれています。

そしてこのバビロンは、**大水のほとりに住む財宝豊かな者。(エレミヤ書 51:13)**

もっと関心が高まりますよ。49 節を見て下さい。

バビロンは、イスラエルの刺し殺された者たちのために、倒れなければならない。

バビロンによって、全地の刺し殺された者たちが倒れたように。(エレミヤ書 51:49)

どこであれバビロンは、イスラエルが存在している時代に存在しており、そしてイスラエルの破壊に責任を負わされるのです。

解釈としてあり得るのはこうです。

エゼキエル書 38 章、39 章で預言されているイスラエルへの攻撃が、間違いなくロシアによるものであることは既にお話した通りです。その時、このバビロンは行って、イスラエルを救うことができるかもしれないのに、その戦争には関わらない方を選びます。

その理由が経済的問題であることは明らかで、イスラエルが攻撃されるのを黙認します。

つまりこのバビロンは、イスラエルが存在するのと同じ時に存在している国なのです。

53 節はどうでしょうか。

たといバビロンが天に上っても、たとい、そのとりでを高くして近寄りがたくしても、わたしのもとから荒らす者たちが、ここに来る。—主の御告げ— (エレミヤ書 51:53)

「バビロンが上るかも」ではなく、「バビロンが天に上る」と書いてあります。

これは、宇宙開発の話です。「バビロンは天に上り、その砦を高くする。」

ここでも預言者は思ったことでしょう。「どうやって？」

私たちには分かります。スターウォーズ他、全ての“宇宙モノ”

天に上って砦を高くする国、大水のほとりに住む国、イスラエルが存在する時代に存在し、イスラエルが助けを必要としている時、破壊される瞬間にそれを黙認する国、巨万の富を持つ国。

黙示録に戻ると、クスリが経済を牛耳る国、好色にふけている国、水の上にある国。

これら一連の具体的な条件に当てはまるただ一つの国、真に商業活動の中心であるその都が、一瞬の内に焼き尽くされるのです。

皆さんの忍耐に感謝しつつ、もう時間がないので、一つの考えをお伝えしておきます。

大きな可能性としてあり得るのは、黙示録 18 章のバビロンは、アメリカ。

その可能性は非常に高いです。

私の個人的意見は、アメリカがバビロンであってもなくても、この国は崩壊するという事です。アメリカは奇妙なほど終末預言の中には登場しません。患難時代の黒幕に関係してローマの偽宗教組織となる復活したローマ帝国、またロシア、イスラエル、東からは中国やアジア諸国も登場するのに、アメリカが該当する箇所は本当に見当りません。

なぜなら黙示録 18 章に書かれているように、全世界は驚き、商人たちは船から見るのです。アメリカが恐らく核兵器で一瞬の内に破滅し、バビロンのニューヨークが焼き尽くされて煙になるのを。

また可能性として挙げ得るのは、アメリカの教会が携挙されることで国が骨抜きになる事。教会の携挙でこの国が力を失くし、そのため終末のシナリオに登場しないという事。これが事実であることを願います。

信仰深くても弱くても、イエスが私の罪のために十字架で死に、3 日目によみがえったことを信じて、この素晴らしい救いの恵みを受け取った全てのクリスチャンは挙げられて、地上にいなくなります。

体全体が挙げられるのです。もし私が今夜ハワイに行くなら、私の体全体が行くのです。

足の指が炎症を起こしていようが、頭が痛かろうが、爪が剥れかかっているようが、何であっても体全部が一緒に行きます。「足は臭いから置いて行こう。」とか「頭は痛いから残して行こう。」とか言いません。

それと同じで、携挙の時は体全部が行くのです。

みんな共に挙げられ、途中で新しく変えられます。

「ジョン、私はそうは信じていない。信仰深い人だけが携挙されると思う。」と言う人もいますでしょう。「みんな、患難時代を通るんだ。」と言う人も。

構いません。信じるのは自由ですからいいんです。

それでもやっぱり、あなたも携挙されるから。あなたも一緒に行くのです。

挙がる途中で説明してあげますよ。

あなたは、あなたの神、主だけが神であることをよく知らなければならない。主は信頼すべき神であり、ご自分を愛し、ご自分の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られる。

(申命記 7:9 新改訳 2017)

しかし、ご自分を憎む者には一人ひとりに報いて彼らを滅ぼされる。主はためらわず、ご自分を憎む者一人ひとりに報いられる。(申命記 7:10 新改訳 2017)